

第4学年1組 学級活動指導案

男子 17名 女子 11名 計 28名

指導者 澤村 力也

1 題材名 学級対抗パワーアップ集会 パート3

議題名 『きずな』を深めるための学級対抗集会について考えよう

2 題材について

(1) 児童の実態

4月の始めの学級活動で、4年1組をどんな学級にしたいかを話し合い、一人一人が学級への思いを持ち寄り、それらを統合して『きずな』『やさしさ』『ゆう気』という3つの言葉にまとめた。『きずな』には、けんかがなく思いやりいっぱい仲間になろうという気持ちが、『やさしさ』には、あいさつ等で働きかけ下級生の手本になろうという気持ちが、『ゆう気』には、注意し合いながら様々なことにチャレンジし自分を高めようという気持ちが込められている。この学級目標の3つの柱を達成するための係活動を子供たちの発想から作り出し、一人一人が目的意識をもって取り組んできた。

4月時点で運動面では経験や技能に大きな男女差があり、学級で遊ぶ際も同じレベルで楽しむことが難しい状況だった。昼休みを延長して行う「なかよしタイム」に行った運動ミニ集会では、自分たちが楽しむことを優先する男子が、訳の分からないままの女子をそっちのけで試合を進める様子が見られた。元気のいいクラスだが、一部の子供の強い発言につられて物事が決まってしまう傾向があり、そのことに不満を感じている子供も多い。

(2) 題材について

学級対抗集会は、ギャングエイジにある子供たちが学級という集団で勝利に向かって助け合ったり励まし合ったりしながら連帯感を高めていくことを期待し、教師から投げかけた。これまでも学年合同で色団対抗の試合を経験しているが、自主的に大会に向けて練習したり作戦を立てたりするという活動を仕組むには学級対抗の方がよいと考えた。1回目の集会を1組が企画し、次からは2組と交互に交代しながら運営していく。

第1回の学級対抗集会では、2つあるイベント係がそれぞれ集会の案を出し、「学級対抗集会で行う『王様ドッジ』は、男女別チームか男女一緒か」という議題で話し合った。「男女別」の支持者は「互いに応援し合うことで『きずな』が深まる」と主張し、「男女一緒」の支持者は「男女一緒じゃないと本当の『きずな』じゃない」と主張した。結果、「男女一緒」で行うことになった。集会当日は、「弱い人を守る」「投げていない人にボールを回す」と話し合いの中で決まったことを守り、全員がボールに触ることができたが、素早くボールを投げ返してくる2組の子供たちに対して攻撃のリズムが悪くなり負けてしまった。

事後の話し合いでは、学級会で話し合われた内容がきちんと生かされたことを喜ぶ声が多い中、ただ一人「全力で戦えなかったのが楽しなかった」と主張するA児が涙ながらに語ると、それに賛同する子供たちが出てきた。A児は、クラスのほとんどの子供たちが「全員がボールに触れること」が『きずな』だと考える中、「勝利のために精一杯にがんばる中で作られる『きずな』もあるはずだ」と訴えた。

第3回学級対抗集会では、子供たちが勝つことを目指して練習したり作戦を立てたりする中で、チームワークを高めることを目指している。前回は運動会と時期が重なったこともあり、なかなか練習時間が確保できなかったため、今回は十分な準備期間を設け、各学級で練習や作戦を立てる時間をとりたい。そして、取組の様子を見守り、学級をよりよくしていく活動として支援しながら集会をつくり上げていきたい。

3 研究の視点

(1) 望ましい集団活動につなげる話し合い活動の構想

① 学級目標の達成を目指して展開する学級活動

学級目標の3つの柱について毎月1回アンケート調査を行い、目当て係がその集計を行っている。その結果については帰りの会等で短い話し合いを行い、出された意見はグラフに書き込んで掲示している。5月の結果は、第1回学級対抗集会の成功を受けて、図1の様になった。全項目について達成度が上がっている。

結果から、あいさつ等下級生の手本となることを目指す『やさしさ』を運動会での重点項目として取り上げることになり、子供たちはそれぞれの団席で応援の中心となってがんばる姿が見られた。

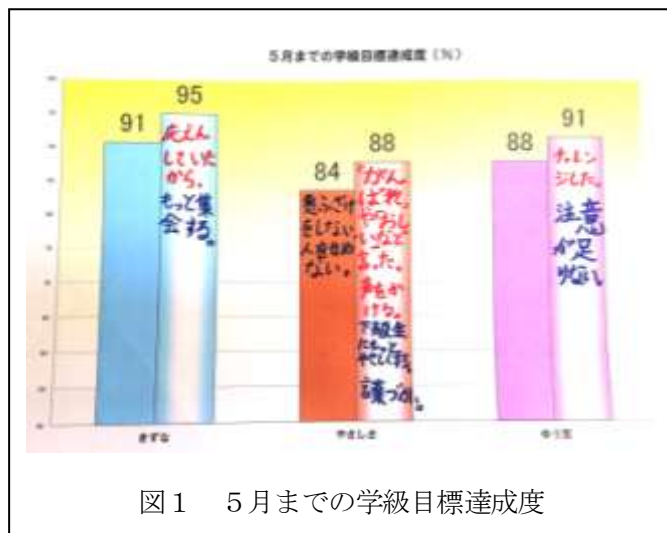


図1 5月までの学級目標達成度

② 議題を決定するための活動

これまでの集会の中でスポーツの苦手な女子や一部の子供から「イベント係はスポーツが得意な子ばかりで、提案される内容が難しい」というつぶやきがあった。そこで、第3回学級対抗集会に向けてより多くの思いを汲みとるために全ての係からアイデアを募ることにした。そして、「バナナ鬼」「ラケットベース」「王様逃走中」等、出された素案をもとに休み時間を使って試しの活動を行い、支持者が多かった「ラケットベース」を行うことになった。試しの活動で行った「ラケットベース」では、ベース型の競技に慣れていない子供たちにも分かりやすいようピッチャーは同じチームの子供が行い、全員が打ったらチェンジし、ベースで止まらずボールがホームに返ってくるまでに一周すると得点になる等の工夫をしていたが、一部の子供たちから「もっとルールを工夫したい」という声が上がってきた。イベント係の子供たちは、休み時間に試しの活動を行い、「3アウトでチェンジにする」「三振あり」「ベースで止まることができる」というより野球に近付けるアイデアを出し、それを「ラケット野球」と名付けることにした。

「ラケットベース」は、運動が苦手な子供たちでも全員が理解でき、必ず全員に活躍の場面が来ることを大切にしている。一方、「ラケット野球」は、より難しいルールになるため、練習を通して教え合う中で団結力を高めていくことを目指している。今、本学級が願う『きずな』が深まるのは、苦手な子供たちへの思いやりを優先した「ラケットベース」か、それともより難しい内容に挑戦する中でクラスの全員が一丸となって、取り組むことを優先する「ラケット野球」かを考える時間にしたい。

(2) 合意形成に向けた支援の工夫

① 互いの考えに関心をもって臨むための学級会カードと意見一覧表

学級会カードには、A、B両案について「よいところ」と「心配なところ」を書き、自信をもって発表したり、相手の意見に関心をもって聞いたりできるようにしておく。さらに、一人一人の意見を一覧表にまとめたものを配布して読み合っておき、賛成できる意見に赤、詳しく知りたい意見に青で線を引く。また、友達の書いた「心配なところ」に関しては改善するためのアイデアを書き込んでおく。事前に互いの意見を知り合っておくことで、聞きたい気持ちを高めることができると考える。

② 分かり合う時間を確保するための工夫

司会者グループは4人の輪番制で行い、1年間の内に何度か司会者を体験できるようにしておく。事前に全体指導で学級会の進め方のマニュアルを使用し、全員が同じ流れで進めることができるよう共通理解することで、子供たちは見通しをもって話し合うことができるようになると思う。司会者グループや提案者と事前によく相談し、流れや決定の仕方を決めたり練習をしたりして、自信をもって進めることができるようにしておく。

子供たちの相互理解を深め、学級にとってよりよい活動を考える時間を十分に確保するため、意見一覧表をもとに、予想される意見を短冊に書いて準備しておき、話し合いをスムーズに進められるようにしておく。

③ 相互理解を深め、よりよい集団決定に向かうための教師の出番

まだ十分に自分の思いを表現できない子供もいる。そこで、発言者の真意が伝わっていないと考えるときは積極的に入って立ち止まらせたり、さらに発言を促したりしていきたい。その際、言葉に詰まったときは「Aさんの言いたいこと分かる?」「なんて言いたかったのかな?」等と代弁を促して、みんなで支え合いながら話し合いを進めていく雰囲気づくりに努めたい。また、学級会カードをもとに、話し合いのポイントとなる意見を書いている子供たちに聞き取りを行って確かめたり、具体的な体験を掘り起こしたりして真意をつかんでおきたい。

(3) 実践意欲を高める評価の工夫

学級会カードには①議題、②自分の考え、③今日の話合いでがんばっていた人と理由、④話し合いの自己評価、⑤感想の5つの欄を設ける。③～⑤は話し合った後カードに書き込み、③に書いた児童へ「ハッスル!カード」を手渡すようにしたい。その際には、がんばっていた点を一言伝えるようにする。学級会で発言することは学級をよりよくするために力を発揮しているということである。評価し合うことによって、より積極的に関わっていこうとする意欲を高めていけるようにしたい。

また、終末には「今日の話合いで考えが変わった人」がその思いを伝え合う場面を設ける。「考えが変わった」とは、AからBが変わったことだけを言うのではなく、より一層Aがいいと思うようになったことやBの考えもよくわかるようになったことも変わったことと捉える。子供たちに自分の考えの変化を感じさせるため、A、B両案に対して事前と事後の2回・5点満点で評価を行う場を設ける。多数決になった場合は、カードに事後の評価を書かせた後で投票を行う。

子供たちが話し合いを深めていくための手立てとして、発言の型を用意し提示しておく。子供たちは話し合い

の経験が浅いうちは自分の思いだけを語る〔バラバラ発言〕をしているが、次第に友達のことを汲みとって話そうとする〔支える発言〕が出てくる。さらに話合いの本質に迫ろうとする〔深める発言〕が表れ、最終的には合意に至るための方法を〔つくり出す発言〕を生み出していく。発言の高まりの段階を想定し、そのような発言があったときに適切に賞賛することで、子供たちに自分たちの力で話合いを深めていく力を付けていきたいと考えている。

◎目指したい発言の型	
〔支える発言〕	○君と同じで△がいいと思います。理由は…。 ○君は◇ということが言いたいのだと思います。
〔深める発言〕	△というのは◇を大切にしたいということですか。 △はこうすればもっとよくなると思います。理由は…。
〔つくり出す発言〕	△と×を合わせて□にすればいいと思います。理由は…。 ○さんの意見で思いつきましたが、◇と考えたらどうですか。

4 題材の目標

- ・学級目標の達成を目指し、「学級対抗集会」についての話合いや活動に積極的に参加する。
(集団生活や生活への関心・意欲・態度)
- ・これまでの話合いや取組の成果を生かしながら『きずな』を高める方法を考え、工夫しながら取り組んでいる。
(集団生活の一員としての思考・判断・実践)
- ・みんなでよりよい学級対抗集会にするために協力することの意義や、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の進め方について理解している。
(集団活動や生活についての知識・理解)

5 活動計画 (4時間)

活動内容	活動時間	観点	評価規準【評価方法】
・4～5月を振り返り、学級活動の方針を決める。 ・7月の学級対抗集会アイデア募集のお知らせを聞き見通しをもつ。	課外 帰りの会	思	・4～5月の取組を振り返り、よかったところや改善したいことについて考えをもち、発表している。 【発言・つぶやき・学級目標達成度アンケート】
・係ごとに学級対抗集会の素案を練り発表する。	学級活動 (1/4)	思	・第1回学級対抗集会での成果や学級目標アンケートの結果等をもとに、学級目標に近付くための活動を考えている。 【発言・つぶやき・態度】
・試しの活動で学級対抗に取り上げたい競技を選ぶ。	課外	関	・学級対抗集会にふさわしいかどうかを確かめるため、積極的に参加し意見を述べている。 【発言・つぶやき・態度】
・議題を決める。	課外 (※司会者グループ)	知	・司会や書記の役割を理解し、進んで引き受けている。 【発言・つぶやき・態度・活動の様子】
・議題を知り、学級会カードに自分の考えを書く。	課外	思	・学級目標に近付くためにはどちらの活動がよいのか、自分なりに考えてカードに書いている。 【学級会カード】
・議題「学級対抗集会にふさわしいのは『ラケット野球』か『ラケットベース』か」	学級活動 (本時2/4)	思 関	・前回の成果や学級目標を根拠に『きずな』を深める方法について考えている。 ・友達の意見に関心をもち、支え合いながら話し合い、学級対抗集会をよりよいものにしようと努めている。

			【発言・つぶやき・態度・学級会カード】
・学級対抗集会の準備をする。	学級活動 (3/4)	思	・話し合いの成果を生かしながらそれぞれの役割を果たそうと努力している。【発言・つぶやき・態度】
・学級対抗集会に向けて練習したり作戦を立てたりする。	課外	関	・学級対抗集会を通して学級をよりよくするために積極的に参加している。【態度・3行日記】
・学級対抗集会を行う。	学級活動 (4/4)	関	・学級目標の達成を目指し、友達と協力しながら集会に参加している。【発言・つぶやき・態度】
・第3回学級対抗集会の振り返りをする。	帰りの会	思 知	・「話し合いの成果を生かすことができたか」「学級目標に近づくことができたか」を考え、よかったところや問題点を考え、発表したり、振り返ったりしている。【発言・つぶやき・日記】

6 本時の学習（本時 2/4）

(1) ねらい

- ・第1回学級対抗集会の成果や学級目標を根拠に、学級対抗集会を通して『きずな』を深める方法について考えている。
(集団の一員としての思考・判断・実践)
- ・友達の意見に関心をもち、聞き合ったり、代弁したりしながら話し合い、相互理解を深めて学級対抗集会をよりよいものにしようとしている。
(集団活動や生活への関心・意欲・態度)

(2) 展開

学 習 活 動 (配時)	教師の支援 ◆評価
<p>1 議題と目当てを確認する。 (2分)</p> <p>議題：第3回学級対抗集会にふさわしいのは「ラケット野球」か「ラケットベース」か考えよう。</p> <p>2 提案理由を確かめる。 (2分)</p> <p>○『きずな』を深めるには「ラケット野球」と「ラケットベース」のどちらがいいか考えてください。</p> <p>資 みんなの意見の一覧表</p>	<p>・自分の意見をもって、話し合いに参加できるようにあらかじめ学級会カードに考えを書いておく</p> <p>・一人一人の意見を一覧表にまとめて読み合っておき、子供たちが本音で語り合える時間を確保する。</p> <p>・友達の意見を確かめることができるよう事前に意見一覧表に書き込みをしておき聞きたいことを考えておく。</p>
<p>3 学級対抗集会の競技について話し合う。 (30分)</p> <p>出し合おう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A案：ラケット野球</p> <p>○3アウトでチェンジになるので真剣になる。みんなまで一生懸命練習できて『きずな』が深まる。</p> <p>○ベースで止まることができるので、声を掛け合える。走塁のアドバイスで『きずな』が深まる。</p> <p>△走るか、止まるか判断が難しいので失敗しそう。</p> <p>アウトになるとチェンジになるので嫌なことを言われなにか心配。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B案：ラケットベース</p> <p>○全員打ったらチェンジなので必ず全員に活躍できるチャンスが回ってくる。友達の活躍を応援することで『きずな』が深まる。</p> <p>○三振がないので安心できる。絶対打てて、遠くに飛んだらふわふわ言葉が増えて『きずな』が深まる。</p> <p>△打てない人がいると時間がかかり、全員に回ってこないかもしれない。</p> </div> </div>	<p>・司会者がつまづいたときや話し合いが行き詰まったとき等、必要に応じて進行の助言をする。</p> <p>・いいところと心配なところの意見が対比できる板書になるよう、事前に色分けした短冊を用意しておく。</p> <p>・妥協案等で折り合いを付けたいが、こだわる子供がいるときはその気持ちを語らせる。実体験に基づく内容が出てこない場合は助言する等、互いの思いが伝わるように支援する。</p> <p>・みんなが納得できることが大切であることを確認し、しっかりと意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆集団の一員としての思考・判断・実践 第1回学級対抗集会の成果や学級目標を根拠に、学級対抗集会を通して『きずな』を深める方法について考えている。 (発言・つぶやき態度)</p> </div>

<p>分かり合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのラケットベースは合体できると思う。ぼくは全員が打ったらチェンジでベースでも止まれるようにすればみんなもっと安心して『きずな』も深められると思う。 ・前回の学級対抗集会では練習する時間がなかった。練習したり、作戦を立てたりする中で『きずな』が深まると思うので、どちらになってもみんなで協力したい。 ・全員が活躍できればふわふわ言葉が増えて『きずな』が深まるって「おもいやり」だけが『きずな』だと思っていたけど、みんなで一糸懸命になって「団結」するっていう『きずな』もあるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要があれば、小グループによる討議の場を設け発表しにくい子供の意見が反映されるようにする。 ・話合いで決まらない場合、多数決にするが、投票の前にそれぞれがA、B両案についての評価を行う。そして、意見が変わってきた子供たちにどうして変わったのか聞く場面を設け、相互理解を深めるための一助とする。 <div data-bbox="766 537 1468 896" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[支える発言] ○君と同じで△がいいと思います。理由は…。／○君は◇ということが言いたいんだと思います。</p> <p>[深める発言] △というのは◇を大切にしたいということですか。／△はこうすればもっとよくなると思います。</p> <p>[つくり出す発言] △と×を合わせて□にすればいいと思います。／○さんの意見で思いつきましたが、◇と考えたらどうですか。</p> </div>
<p>4 話合いで決まったことを確認する。 (2分)</p> <p>5 今日の話合いを振り返る。 (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互評価、自己評価を書く。 ・感想、これからがんばりたいことを書く。 ・発表する。 <p>6 先生の話 (2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハッスル!カード」を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数決で決まった場合は、少数派の思いを聞く時間を設け、その思いが後の活動に生かされるようにする。 ・教師の話では、①司会者のよかったところ②子供たちの話合いのよかったところ③子供たちの選び取った価値を明らかにし、今後の実践に向けて見通しがもてるようにする。 <div data-bbox="766 1265 1468 1467" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆集団活動や生活への関心・意欲・態度 友達の見解に関心をもち、聞き合ったり、代弁したりしながら話し合い、相互理解を深めて学級対抗集会をよりよいものにしようとしている。 (発言・つぶやき・態度・学級会カード)</p> </div>